

第4回 まさき交流の翼

～微笑みの国タイを訪ねて～



タイ/バンコク

「まさき交流の翼」は、今年度で4回目を迎え、昨年11月13日(水)から17日(日)、4泊5日の日程で天使の都と称されるタイのバンコクと、日本人との関わりも深いカンチャナブリを訪れました。

訪問中、白石町長を団長とした訪問団(60名)は、児童更生施設「生き直しの学校」の子どもたちとの交流や政府観光庁、プラテーパー財団、タイ日本人会、日本へ留学された方々との交流会を通じて、相互理解と友好促進、国際社会への参加促進をはかりました。

参加された方のご意見、ご感想をご紹介します。

微笑みの国タイを

旅して

山本 勅子

(出作)

んでいると、小舟で果物やお土産を積んで近づいてきます。モンキーバナナやドリアンは非常に美味で、みんなでいただきます。

暁の寺は、きらきら輝く陶器の破片を張りつめた高さ79メートルの大仏塔であり、また、王宮は、ラマ8世まで住んでいた権力と財力を誇示した建物で、現在でも国家儀式迎賓館として利用している立派なものでした。

3日目は、「生き直しの学校」を表敬訪問し、大勢の子どもたちに花のリボンで迎えられました。この学校は日本政府の援助で建設されたもので、親のない子どもたちですが、非常に明るく目も輝いているように思えました。

交流会は、校長先生、町長さんの挨拶ではじまり記念品や学用品の贈呈、子どもたちによる歓迎の民族舞踊を披露してくれました。特に踊ってくれた子どもたちが、自己紹介で「はじめまして、私の名前は〇〇です。」と日本語ではっきり言われたのには感動しました。将来の学校運営資金になるということで「油ヤシ」の木4本を記念植樹した後、学校で用意された昼食をとりながら親睦を深め、子どもた

ちの「幸せ」を念じながら別れました。

4日目は、山田長政ゆかりの日本人町跡をはじめ、史跡めぐり、最後のショッピングを楽しみました。夜はタイ日本人会や日本留學生の会の方々と夕食を共にし、交流を深めました。私たちのテーブルには、単身でタイに渡り幼稚園を経営しているご婦人が同席し、タイの現状を日本と比較しながら、貧富の差などの問題をまじえて語ってください、非常に参考になるとともに楽しい時間を過ごしました。このご婦人も将来は帰国し、日本で生活するそうです。この交流会で全日程を終わり帰国の途に着きました。

最後に実行委員、添乗員の皆様には色々お世話になりました。ありがとうございました。



▲水上マーケット



▲記念植樹 (生き直しの学校)